

# なかゆくい Series 2

## 「地域資源はダイヤの原石!？」

経済産業部中小企業課



昨今、地域の魅力を再発見しようという取組が全国で盛んに行われています。沖縄にも数えるときりがないほど多くの地域資源が存在し、その良さや特長を活かし類似商品との差別性を強調した、高品質で消費者に選ばれる売れる商品づくりが各企業で取り組まれています。

ここでは、沖縄における地域の資源を活かした商品開発の取組を紹介します。

### 農林水産物

今や全国区の知名度となった「ゴーヤー」、お菓子などの材料として脚光を浴びる「紅イモ」、多様な加工品の原料として使用される「もずく」…例をあげるときりがありませんが、沖縄にはまさしくバリエーションに富んだ豊富な農林水産物があります。

そのような特長のある資源を活かし、紅イモを活用した「紅イモ焼酎」、沖縄島野菜を活用する「島野菜スイーツ」等が新商品として開発されています。

沖縄の銘酒・泡盛を製造する過程で副産物として出るもろみかす（カシジエー）は既に「もろみ酢」として商品化され、一般的にも知られています。それを活用した更なる高付加価値の商品の開発や海外に通用する商品アイテ

ムを日々考え続けた石垣の企業（ゴーヤカンパニー）が、市場ニーズの把握、展開可能性の検証、味、商品形態及び加工方法など日夜研究し、開発にこぎつけた商品が「カシジエードレッシング」です。これは確かに今まで有りそうで無かった物で、海外での需要も期待出来ます。



## 工芸技術など

沖縄は全国で3番目に伝統工芸品目が多いということをご存じでしょうか。琉球びんがた、宮古上布、八重山ミンサー、壺屋焼などなど。耳慣れたものばかりです。これらの工芸技術を活用し、また現代風のアレンジを加えることで商品力を高めるという取組も多々あります。伝統工芸品とコラボレートした「箸ケース」などの「テールウェアアイテム」、ヤカバンなどの「革製品」、「琉球日傘」、「サンダル」など多岐にわたります。古より受け継がれた沖縄の伝統工芸の文化・技術に魅了され、現代風のデザインとのコラボレートの可能性に気付いた企業（琉球工房Ryukyu Craft）が、伝統工芸品を日常で使うために、県内の伝統工芸技術者のネットワークを構築、県外へのイベントにも積極的に参加して様々な「琉球テーブルコーディネート商品」を開発しています。県外でも高い評価を得ている、洗練された商品は是非、あなたのご家庭でもお試しになってみませんか？

## 観光資源

沖縄には青い海、空、独特の歴史・文化など他地域にはない観光資源が多く存在します。一方、観光客のニーズは多様



化が進み、これまでにない観光プログラムの創出が求められています。観光客は様々な目的で、かつ高い満足度を求めその地に訪れます。沖縄音楽を心ゆくまで体感する「音楽ツアー」、「歴史や芸能を体験するツアー」など、ニーズに的確に対応するオーダーメイド型の観光商品の開発が進められています。

また、昔ながらの集落を活かした「古民家観光ツアー」は、沖縄戦の戦禍を唯一まぬがれ、沖縄の原風景と香り、生活リズムが今も



色濃く残っている渡名喜島で開発されました。

このツアーを開発した渡名喜島出身の南風原社長（株）福木島となき）は、島の若年者層定着のための雇用創出、観光客来島による産業振興を強く意識し、事業をスタートしています。

現在では、観光客のニーズを深掘りするため、島外の方の評価を繰り返し聞



きサービスメニューの拡充を図るとともに、既存の商品にはない特色を打ち出し、島の特産品の開発に取り組んでいるところです。

ここであげた商品例は、ほんの一例ではありますが、身近にある地域資源に気づき、既存商品とは異なる優位性（差別化）を模索して、また消費者のニーズに耳を傾けつつ、売れる商品を開発するという取組は様々な場所（企業）で様々な形で行われています。

県外、海外での競争に打ち勝つことは容易ではありませんが、地域資源が本来有する魅力を最大限に引き出し、消費者ニーズに基づく売れる商品づくりを行うことで競争力が高まると期待しています。

『ダイヤの原石を磨き上げ宝石に仕上げる作業』を皆で応援し、また一人でもそういった作業に加わる方が増えていくことで、いつの日か沖縄が宝石の島となることに思いを馳せたいと思います。ダイヤの原石（地域資源）は身近に転がっているかもしれません。

中小企業地域資源活用プログラムホームページ <http://www.smj.go.jp/chikishigen/index.html>